

# 京都のつばさ

日本航空の不当解雇撤回闘争勝利をめざす京都共闘会議

第34号

2016年11月15日

京都府京都市中京区壬生仙念

町30-2 ラポール京都5F

京都総評気付

TEL075-801-2308

FAX075-812-4149

E-mail:sinamu2002@yahoo.co.jp

## 今年度を何としても勝利解決の年に！

### 手ごたえつかんだ11月稲盛財団京都賞授賞式抗議宣伝行動

ハンドマイクで呼びかける向こうに、ちょっと今年は遅い紅葉でまだ緑多い美しい比叡山の山並みを望みながら、稲盛財団の京都賞授賞式参加者へのJAL165名不当解雇撤回を求めるビラまき宣伝行動を行なった。11月10日、もう第32回目にもなった稲盛財団主催の京都賞授賞式に対する抗議宣伝行動が行われた。都大路を縦に通る地下鉄烏丸線の最北：終着駅から上がってきて授賞式会場・国立京都国際会館に向かう地点でJAL不当解雇撤回闘争団・内田妙子団長はじめたくさんの原告団や主催した「日本航空の不当解雇撤回をめざす京都支援共闘会議」に結集するたくさんの労組や「JAL闘争を支える京都の会」の仲間が参加した。「路上に駐車するな」という国際会館＝京セラ側の言に従って、京都総評の宣伝車は会館前や会場周辺をJAL闘争団が流し宣伝を並行して行なった。

この賞の授与は毎回内外の学者・文化人に一人五千万円の賞金を手渡すという、たびたび経済界の雑誌からさえ暴露されている「もうけなくして安全なし」というような稲盛イズムで、この間のJAL再建云々で株で不当にもうけたようなお金も使い、札東で人のほっぺたをひっぱたくような行事が連綿と続けられてきた。今年の私たちのビラは、表になんと言っても本年9月23日の不当労働行為事件での最高裁勝利とだからゆえに稲盛和夫JAL名誉顧問は争議の解決に直ちに乗りだせと訴え、裏面には「京都市美術館が京セラ美術館に！50億円で50年間の命名権買取」（増改築費用をそれで賄う）という見出しで新聞切り抜きなどを紹介し、「お金で買えないものがある！作品寄贈者への冒涇、芸術を愛する市民の思い、空の安全、165名のパイロット・CAのいのちと生活・・・」とのリードで、新聞の「世界中の物笑いに」とか、「行政も企業も貧しき精神」「文化芸術都市」が泣く」「市民への敬意欠く」「理念、役割投げ捨て」等々の日本画家やギャラリーオーナーや造形作家、他都市の元美術館長の言葉を載せ、「市民の怒り広がる」様子を伝えている。

#### お金で買えないものがある・・・50年で50億円

「ひとり5000万円のノーベル賞並みの賞金を贈る京都賞。今年も盛大な授賞式が催されるようです。京セラやJAL,その関連企業の労働者の血と汗と涙の結晶が富の源泉です」と『京都のつばさ』は結んでいる。

しかし私たちは内田妙子団長を始め、果敢に宣伝行動を開始した。JAL闘争を支える京都の会、全国一般、全印総連、JMITUなどたくさんの支援の仲間から激励・連帯の挨拶をハンドマイクでしていただく。40分ほど宣伝したところで、JAL闘争団の内田団長、鈴木圭子副団長、JAL闘争京都支援共闘・梶川憲世話人などで、稲盛和夫JAL名誉顧問あての争議解決を求める要請書を提出に会場に向かう。途中で、稲盛財団・京セラの人物が現れ、「私が申入れを受け取る」というので、内田団長からは「交渉過程で起きた不当労働行為が最高裁で断罪されたのであるから、解雇問題について解決する決断を下すべきであること、当時の会長であった稲盛和夫氏にその責任があること。」を縷々表明し、申入れ文書を全文読みあげ手渡した。そして池田和弘京都共闘事務局長（京都総評事務局長）の申し入れ行動報告を受け、この日の宣伝の最後には、鈴木副団長の発声で、稲盛名誉会長に届く大きなシュプレヒコールで抗議宣伝行動を閉じた。

勝利解決に向けた山場であることから、昨年までのようなこの授賞式前90分の宣伝で終わらず、翌日の受賞者3人の記念講演会開会前にも宣伝し、その後京都市内伏見区大手筋商店街での桃太郎宣伝、翌々日12日（土）の受賞者3人別々の講演会にもそれぞれ出向き、京都大学時計台下の記念講堂前でもビラまき宣伝を実施した。

11月10日から12日までの3日間で、このJAL闘争京都支援共闘のニュース：『京都のつばさ』と、日本航空の不当解雇撤回を目指す国民支援共闘会議発行の四つ折りリーフをセットした宣伝物は1800部完配した（手渡しのみで）。2日目11日の記念講演会参加者は95%のビラの受け取り率で、「頑張ってください」と、現金のカンパまで争議団に寄せていただく参加者もおられた。「稲盛さんもそんなしとったらあかんわな」と。稲盛名誉顧問地元の伏見の商店街では、ずいぶんと争議団はそれぞれ話し込んだ。

11月9日の日本航空の不当解雇撤回闘争勝利をめざす京都共闘第6回総会での脇田滋代表世話人（稲盛名誉顧問地元伏見の龍谷大学法学部教授）のあいさつを含め、「もう山場、なんとしても勝利解決を。そしてそれは出来る」と、支援者も争議団も確かな手ごたえを感じた4日間の京都行動だった。

# 日本航空の不当解雇撤回をめざす京都支援共闘会議第6回総会

日時 2016年11月9日(水) 18:30~20:00

場所 ラポール京都4階 第一会議室



総会の司会兼議長は; JAL 闘争京都共闘の鈴木事務局次長が務めました。(左端)

## 主催者あいさつ 脇田滋代表世話人

主催者を代表してJAL闘争京都共闘の脇田滋代表世話人が最初にあいさつしました。脇田氏は、不当労働行為について最高裁で勝利の決定が出た。この取り組みを一層大きく発展させるきっかけになるというふうに思います。今日は、ここに来る途中に号外が配布されていて、アメリカの大統領にトランプが当選確実だと報道されていました。その前に韓国で朴槿恵が窮地に立っている。実は私は2週間前に韓国に行っていて、その時にソウル広場で大きな集会が開かれている様子を見て来ました。それがこんな状況になるとは思っていなかった。すごい事は去年ですね朴槿恵は5大労働法の改悪法案を出しまして、特にその中で成果主義を導入し、大阪の橋下市長のように5段階の一番下であれば解雇するというを制度化するというで、「低」(ひくい)成果者は解雇ということを行おうとしていたのですが、労働組合、特に公務員の組合と韓国の場合「公共運輸労組」というのがありまして自治体なんかの公共部門と運輸関係の労働組合が産業別の組合を作っていて、ここは非常に頑張っているのです。ある意味そこへの狙い撃ちというそういうことであつたのですが、私が行く前に4万人のストライキの集会を公共運輸労組がやっていた。公共運輸労組というのは全国で14万人位がいますが、社会のために公共的な仕事をする労働者、公務員の組合は法律の関係で今の所は別になっているのですが、自治体で働く現業部門の労働者の人や運輸関係の労働者の人たちが産業別の組織として入っていて、14万人というのは韓国の場合、日本の労働人口の3分の1ですので、日本でいうと40万人を超える大きな組合がストライキをバンバンやっている。いうことでまさに激突をしていたのです。

「おかしいものはおかしい」と

ところが大統領の方のスキャンダルというのが明らかになって、もうデモにみんなが出て来る。いうことで、ストライキもしますし、そういうデモにも積極的に出るという形で「おかしいものにはおかしい」ということで中学校や高校の生徒が制服のままデモに出たりしてということ、やはりそれは、労働組合が正しい要求を掲げて本当に必死に頑張っているという10年間、保守政権の下で非常に弾圧をされていたのですが、そういうことをやってそれが若い人たちにも「ああいうふうに関えるのだ」ということを示したというふうに思っていた。

ちょうどこんなふうになって今日トランプが当選したのでまだ整理が出来ていないですが、やはりおかしい政治、おかしい企業の横暴に対して声を上げれば、思わぬ形で大きな画期というか運動のチェンジがくるのだなと思っています。

最高裁の決定を力に最後まで闘おう

そういう意味ではJALの取り組みはなかなかこれまでの裁判は大変だったがこの最高裁の決定などをきっかけに最後まで闘い続けることが必要であつて今日の総会が是非皆さんのご協力ですべて成功しますようによろしくお祈りします。



「あの空へ帰ろう」を熱唱するうたごえの仲間たちと、青いとり原告(加味根さん、服部さん)が裁判の支援を訴えました。